

## 山梨県スポーツ指導者協議会

## 会報 第十号

平成12年  
4月30日  
発刊

## 巻頭言

山梨県スポーツ指導者協議会

会長 一木昭男

高齢者の人口の増大と小児化により学校体育や地域のスポーツ活動を推進するために、「総合型地域スポーツクラブ」の育成が進められており、文部省も平成7年から補助事業を行っている。更に全国に300ヶ所に広域スポーツセンターを設立し、その下に地域スポーツクラブを約1万(中学校相当数)作るための振興策を提言している。

地域スポーツクラブの基本的ビジョン

- ① 地域住民を対象としたクラブ員相互の自発的、自主的な活動を行う。
  - ② 単一種目だけでなく複数種目で行う。
  - ③ 青少年から高齢者、初心者からトップアスリートまで様々な年齢、技術、技能の保有者が活動する。
  - ④ 活動の拠点となるスポーツ施設、クラブハウスを有し、定期的、計画的にスポーツ活動の実施が可能となる。
  - ⑤ 質の高いスポーツ指導者を配置し、個々のスポーツニーズに対応した適切な指導が行われる。
- 現在の日本ではクラブ独自のスポーツ施設をもつことが困難であっても、公共施設を有効活用することによって進めることができる。地域スポーツクラブの設立条件をあげると、
- 1、親睦と社交を最優先する。 2、クラブの公共性

- 3、住民の自発的、自治的運営
- 4、日常生活圏域の会員
- 5、多世代の仲間
- 6、継続できるスポーツ活動
- 7、低料金の会費
- 8、クラブハウスの所有

9、公共スポーツ施設の運営受託  
本県もスポーツクラブを育成する施策を検討しなければならない。  
サッカーのJ1・J2の設立目標はヨーロッパのクラブの様に多種目スポーツを包括したクラブ組織を目標にしている。現在J1クラブ十六、J2クラブ十一であり、都道府県別十九にある。

幸い本県にはVF甲府スポーツクラブがある。VF甲府スポーツクラブ社長の深沢猛雄氏が或る会合で次の様な発言をされた。

「平成十一年のJ2の成績は最下位で申し訳なかったが、平成十二年は県民の皆さんの期待に答えられる様に努力したい。更にJ2のリーグ本来の目的はサッカーの成績上位を目指すだけでなく、総合スポーツクラブの組織や育成を進める事を忘れてはいけない。まだすぐに実現するまではいれないが将来を期待して欲しい。そこでスポーツ指導者協議会の協力をお願いしたい。」

私達スポーツ指導者は、本県唯一のプロスポーツクラブである、VF甲府スポーツクラブを皆で温かく育てる様に努力しよう。彼らはクラブ専属の施設を持たない現状では、同時に複数種目のスポーツ教室を開催することは困難であるが、公共の施設を借りて始めよう。

多世代の仲間が各種目のスポーツで一貫した指導を受けられるスポーツクラブを作ろう。スポーツを行う人、スポーツを観る人、スポーツを支援する人、誰もが楽しく活動しよう。

仮に緑が丘のスポーツ公園を拠点にしたクラブ活動の場合、サッカー、陸上競技、バレー、バスケット、卓球、水泳等を同時開催する。小学生から高齢者まで、初心者から中級者まで同じレベルの人達で楽しくスポーツする事によりクラブも作られて行く。支部同時開催のスポーツ教室として、

- ① 花の観賞ウオーキング活動 満開時期にあわせて支部ごとに企画して他の支部会員の参加を呼びかける。
- ② 山梨百名山登山から4箇所位選んで相互に交流する。親子の参加や中学校の総合学習の課題として行う。山岳協会の会員の正しい登山技術指導により安全登山を行う。
- ③ VF甲府のサポーターとしてスポーツ指導者協議会会員で、彼らを応援しよう！  
などが考えられるが、スポーツ指導者として積極的に参加し、活動していこう。

## 関東ブロック会議を開催して

山梨県スポーツ指導者協議会

副会長 土屋金蔵

平成十一年度第一回全国スポーツ指導者連絡会議・関東ブロック会議(財)日本体育協会・全国スポーツ指導者連絡会議・(財)山梨県体育協会が主催・山梨県スポーツ指導者協議会が主管して、六月二十六日(土)・二十七日(日)の二日間、石和町「糸柳」で開催された。

開会式の後、酒井幹事を座長として、全国幹事会で共通テーマが、昨年に引き続き「スポーツ指導者の養成と活用」となったことが報告された。

つづいて日体協の田中紀裕課長から、平成十一年度事業概要の説明があり、指導者の認定は文部省令で位置付けることで進んでおり、スポーツ振興法の実施は早くして平成十三年、予算配分等は平成十四年以降、資格の活用方法策としての国体監督は、現時点で対応できる団体から取り組んでいるとの話であった。

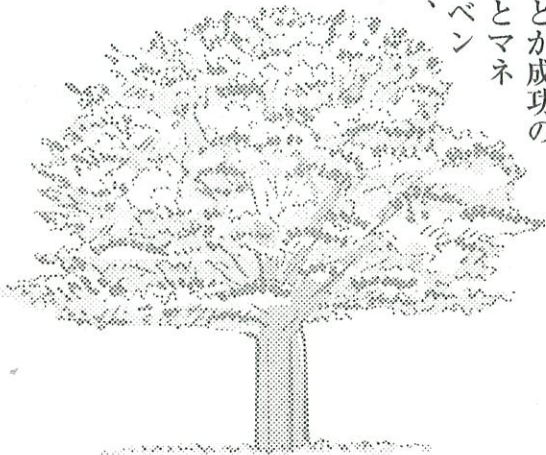
研究協議では保体審答申・サッカーくじ法案・スポーツ振興法等について意見、要望、課題など、各都県より事前に提出された資料を基に協議した。日体協としてもこの会議に出された意見・要望等について、各方面の力添えを受けながら、多面的に考え、各事業のPRと各市町村の実態を具体的に把握した上で、事業の予算化を図っていききたいとのことであった。また、有資格者の範囲を明確にし、スポーツのニーズに対応する養成のシステムを再検討する必要があると田中紀裕課長がまとめられ会議を終了した。今回の成果が公認スポーツ指導者制度の発展に反映されるよう期待している。

## スポーツと地域活性化

山梨県スポーツ指導者協議会

西八代支部理事 土橋上子

平成十一年度の公認スポーツ指導者全国研修会に参加させて頂いた。パネルディスカッションでは「地域の活性化とスポーツイベント」と題して、テレビ朝日司会者の宮嶋泰子さん、パネリストに旭化成工業の宗さん、北海道常呂町教育長の武田さん、大阪体育大学の原田さん、ジャーナリストの増島さん、愛知県三好町役場の三宅さんの方々があつた。三宅さんは、カヌーで国体開催地として活躍、地域に広める為、高校生がアルバイトで指導し、子供が大人を教える状況もある。宗さんは、マラソンランナーとして活躍、企業が力を入れ九州大会が盛ん、観衆を飽きさせない為、筒二〇〇〇本を用意し、看板を筒で叩いて応援、アイデアが良かった為、回をかさねることに観衆が増えた。武田さんは、長野オリンピックに五名のカーリン選手を出して以来「カーリングの町常呂」として知れるようになった。指導者は、おじいさん、お父さん、お兄さん、姉さんである。増島さんは、地域スポーツを活性化するには、観る、創る、やることが成功の鍵と言われた。原田さんは、遊び心とマネジメントが合体して、工夫のあるイベントが生まれる。結論は、創る、観る、やること参加すること、遊び心を中心に、アイデアを出して発展させ、指導者と共に運動を広めて行くことが大切である。この様なことを地域スポーツに取り入れて行きたいと思った。



平成十一年度山梨県スポーツ指導者協議会総会

〔総会議事〕

①1号議案

総会要項「事業報告」(案)について……………承認

総会要項「決算」(案)について……………承認

②2号議案

総会要項「役員の追加」(案)について新理事 岡田正氏……………承認

〔会則第8条、第10条による〕

③3号議案

総会要項「予算」(案)について……………承認

総会要項「事業計画」(案)について……………承認

④その他 なし

山梨県スポーツ指導者研修会報告

講師 萩原 満先生(スポーツ健康課指導主事)

村松敏子先生(部活動外部指導者)

●土・日、放課後の外部指導者の指導はむずかしい。仕事の時間と指導の関係から。

●指導時間について——仕事の関係から、活動の時間対をずらして(5時から)指導している。(成果あり)

●県から学校への指導の方向は、土(第2、4)はなるべく活動しない方向で。また、週1日〜2日は部活動休むように。

●新指導要項では、クラブ活動、部活動の明確な規定がない。そのため、部活動はなれが起ころのでは？

●各学校にまかせせる方向ですすんでいる。国・県とも運動部活動の検討をすすめている。

●週5日制での休日2日は、塾に力が入るのでは？

●外部指導者としては、「感動」「体力」をだいにしていきたい。

●そこに真の教育の芽があるのでは。

●学校でも、部活も教科の指導も同じ気持ちで、ホメル、激励など指導してほしい。

外部指導者としては、学校と十分連絡を取りながらすすめているつもり。また、ノート交換(活動記録の交換)によって、部活動の内容がわかるように配慮している。

(記録望月喜彦)

平成十一年度山梨県スポーツ指導者協議会理事会等報告

平成十一年度は、三回の理事会と臨時の支部長会議が行われ、左記の内容が話し合われた。

【理事会】

〈第一回〉平成十一年四月二十七日(火) スポーツ会館研修室

・平成十年度山梨県スポーツ指導者協議会事業報告・決算について

・平成十一年度山梨県スポーツ指導者協議会予算・事業計画について

・平成十一年度山梨県スポーツ指導者協議会総会

・平成十一年度山梨県スポーツ指導者研修会について

・平成十一年度第一回全国スポーツ指導者連絡会議関東ブロック会議について

〈第二回〉平成十一年九月三日(金)

・平成十一年度会報について

・平成十一年度公認スポーツ指導者全国研修会について

〈第三回〉平成十二年三月十四日(火)

・平成十一年度会報編集計画について

・平成十一年度事業報告・決算について

・平成十二年度役員の選出について

・平成十二年度予算・事業計画について

・平成十二年度山梨県スポーツ指導者研修会について

【臨時支部長会議】平成十二年二月二十四日(木)

・平成十二年度新役員の選考について

・各支部の現状と今後の活動について

・今後の県組織のあり方について

臨時支部長会議では、「支部の現状を考える」の中で、

※役員改選は例年とおりの方向でよいのではないかと。

※支部設立時は、活発な活動を行っていたが、活動が活発な支部とそうでない支部の差が出ていのではないかと。

※支部総会・研修会を行っているところでは、参加率が悪くもっと多くの会員に参加して欲しい。

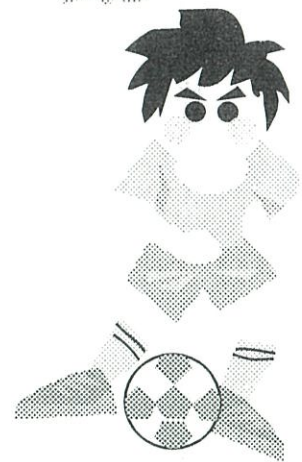
※会費の徴収が思うようにいかない。

※支部組織も大切だが、競技別の組織が必要なのではないかと。

※魅力のある組織づくりが必要。

等の意見が交わされた。

# 平成十一年度 各支部の 活動



府部  
甲支

平成十一年の研修会に思うこと  
甲府支部長 吉田毅

平成十一年度の甲府支部の研修会は実に収穫の多い研修会でした。講師の一木先生、麻場先生の両先生には日頃接することも多く、ご指導をいただいている先生であります。

一木先生には、「スポーツ指導上のトラブル」「スポーツ障害保険について」を暖かな親しみ深い雰囲気なかで、一時間四十分ほどのお話しでした。

また麻場先生には、「スポーツ障害を防ぐためのウォーミングアップ・トレーニング」について、実技を多くとりいれて無理をとまなわなしい笑いも含めた実に納得して覚えやすく、動作のながれのなかに、自然にとけこむような指導でありました。

この研修会に感じたことは、私達の身近な仲間の中に優れた才能と、人格を備えもった人達がいるということです。

この人材をほりおこし、身近な友人として私達の地域社会のスポーツ振興に貢献してゆきたいと思えます。

そのためには同士として語りあい、友情をわかちあえる仲間として、地域に根をおろした行動が出来て、スポーツの地域振興に寄与できるアクションが必要と思われます。

平成十二年はこのことを肝に命じて歩みたく思っております。

## 山梨部 東支

### 東山梨支部の現状

東山梨支部事務局 高野優子

当支部が設立され4年が過ぎたが、設立目的は、多種目に渡った資格者の集まりであるためか、なかなか形となつてあらわれて来ないのが現状である。

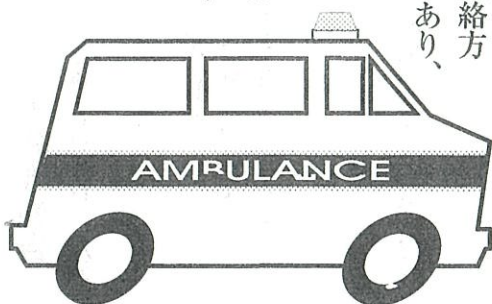
種目を越えて交流し、在住市町村においてスポーツの普及、発展に役立つ組織になるにはどうすべきかと悩むばかりである。

さて、そんな状況ではあるが、平成十一年度の事業としては、6月に研修会として、日本赤十字社山梨支部救急法指導員の土橋義玄先生を講師に心肺蘇生法を学んだ。やはり参加者は少なかつたが少ないが故に人形を使って「気道の確保↓人工呼吸↓心臓マッサージ」の手順をデーターを見ながらくり返す事が出来、一人ひとりが技術の向上と知識の確認を行うことが出来た研修会になった。

さらに、後期事業として、会員の指導者としての指導可能な現状について調査を行い、各市町村へその結果を紹介することにした。

調査内容は、①指導者の活動可能な状況として、種目、対象、レベル、曜日、時間、地域等。②現在の活動状況として、種目、団体名、対象、レベル、会場、入団の連絡方法等について実施した。半数の会員より回答があり、①では、十五種目三十一名の指導者が、②では十種目の団体が依頼に応じ活動できることがわかった。

この結果を詳しくまとめ各市町村へ紹介し地域の指導者としての活動の一步とし、設立5年目へと大きく歩み出したと思う。



代部  
西支

支部誕生して5年目の活動

西八代支部事務局 赤池久美子

支部発足から5年、この間有資格者の連携と全員の親睦を深め、他競技種目を理解するため、年2回の研修会を実施してきた。

平成十一年度は、教育事務所と連携し、生涯スポーツ担当主催で、「指導者養成講習会ウォーキング教室」を十一月二十一日(日)に開催した。支部会員十名の参加があり、総勢三十三名が受講した。スポーツプログラマーの小林徳雄先生より、健康状況チェック、生活週間の予防法、ウォーキングプログラム作成等の抗議があった。JR一ノ瀬駅↓下部農村公園↓木喰微笑館の全長十四kmをウォーキング、日常の運動不足の解消と、紅葉が残る山々を眺め気持ちよい汗を流し、有意義な一日であった。

平成十二年二月二十七日(日)、第五十一回西八代郡縦断駅伝大会にそれぞれ役員として、協力した。この時指導者協議会の誕生が浅いため、一般に馴染みが薄く、PRする必要を感じた。

平成十二年三月五日(日)の支部理事会で五年経過したが、支部活動をどう発展させ、県へどう繋げていくのか、競技団体で有資格者の活用がなされているのか等話題になった。

平成十二年度の研修は「なぎなた競技」の理解と、教育事務所主催の「指導者養成講習会」への参加を計画した。

今後、地域スポーツの振興と会員の資質向上や、行政と連携して、支部事業を推進し、活力ある会に発展させたいと願っている。



公認体力テスト判定員として

受講者 丸山俊文

私は、山梨市の社会体育担当職員として、スポーツ少年団指導者として、勉強の一つと思いい、今回の平成十一年度の公認体力テスト判定員養成講習会を受講しました。

先日、平成十二年の二月に、体力テストの判定員の認定を受けてから私自身初めての体力テストを山梨市でスポーツ少年団を対象に行いましたが、反省点がたくさんありました。

特にストップウォッチの使い方などは、コンマ何秒のなかで、何回、何メートルを頑張っているわけですから、毎回正確に参加者に時を告げられるようにならないと痛感しました。

体力テストは、今現在の自身の体力を知ると共に、自分の特徴を知するためのテストです。

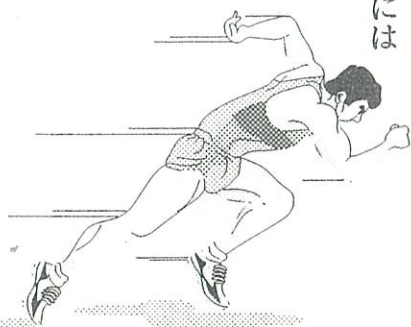
結果がいいに越したことはありませんが、今後この結果をどう生かすかの方が重要だと思えます。

指導者として、このテストの結果を見るとその長所も短所も再確認であり、発見です。

やはり、普段から見ている団員達でするのでその結果のほとんどは確認ですが、自分の指導方針に自信を与えてくれます。

また、入団して間もない、年齢が低い団員には嬉しい誤算が沢山ありました。

本人に自分自信の特徴を気付かせ、それを伸ばし、補っていくという方針で、今後、体力テストを実施する時には、その活用のアドバイスができるように勉強を重ねていきたいと思えます。



## 小学校への水泳実技指導者協力者派遣事業

学校体育実技指導協力者・県スポーツ指導者協議会東山梨支部理事

小川 徹

学校体育実技指導者協力者派遣事業の目的は学校の体育授業教員に対し、実技指導・助言を行うものです。そのため安全や技術の向上を図るため、指導協力者は有資格者であること、日頃の研鑽が求められています。

この事業は、日が浅いけれども事業は拡大してきております。

〔平成九年度〕二十四名の派遣指導者を登録。

〔派遣事業の実績〕六月十六日小立小学校を皮切りに十月まで、延べ五十二校、派遣指導者数延べ百三十九名、指導した児童延べ一千九百九十八名、授業教員数百四十四名を数えました。

〔平成十年度〕派遣登録者 三十名。

〔派遣事業実績〕六月十五日忍野小学校をはじめ九月まで延べ六十校、派遣指導員数延べ百七十一名、指導児童延べ三千二百六十六名、授業教員数延べ二百八十六名と倍増しました。

〔平成十一年度〕派遣登録者 三二名。

〔派遣事業実績〕六月十五日八幡小学校をはじめ七月下旬まで延べ六十六校、派遣指導員数延べ百五十九名、指導児童延べ五千五百八十七名、授業教員数延べ三百二十一名と更に倍増しております。児童の嬉しい手紙に勇気付けられます。

個々に応じた指導を通して、泳ぐことができた喜びと泳ぐことの楽しさと味わい、物事への成功／成就感で自信をもち、体験を重ねることにより、向上心を培うことのできる子どもが育っていきけるよう、更なる協力への努力を続けていきたいと念願しております。

この事業を推進していただいた各指導者の皆様に、心から感謝を申し上げます。

## 運動部活動外部指導者活用事業を顧みて

運動部活動外部指導者 金澤 実

昭和六十一年かいじ国体空手道協議会が市川大門町で開催され、当時は空手道を愛好する子供たちが大勢いました。中学校卒業後、地元市川高校空手道部へ入部する生徒さんもしだいに増えていきました。私は当初、自分の道場での指導が中心だったので、生徒達は高体連主催のさまざまな大会に出場し、入賞を目標に練習し少しずつレベルアップしていきました。関東大会やインターハイに出場できる選手に成長し、本格的な練習が必要となりました。暇を見つけては高校へも指導に通うようになりました。しかし、部活動は授業の一環という事もあり、けがや事故についてはいつも不安を抱えながらの指導でした。そんな折顧問の先生から県教委の委嘱による運動部活動外部指導者のお話しがあり喜んでお引き受けしました。その後外部指導者会議の際、部活動中の事故については、教員と同様県教委ですべての責任を負って下さる事を知り、安心して指導に打ち込めました。専任コーチとして最初に約束したのは(一)挨拶を大きな声でしっかりする。(二)道場をいつもきれいに掃除する。(三)履物を揃える。この三つを心掛けながらの厳しい練習が始まりました。週二〜三回の指導のため修正の繰り返しで、指導方針を浸透させるのに苦労しました。しだいに関東大会優勝、インターハイ、国体で入賞できる生徒も育ってきました。優秀選手だけでなく高校で空手を始めた生徒さんも人一倍の努力と頑張りでレギュラーとなり、大きな大会で活躍した実績もできました。今後も学校より要請がある限り、運動部活動外部指導者として指導していく所存です。今まで一緒に汗をかき、楽しい時を過ごさせてくれた多くの生徒達に感謝すると共に、今後の人生に空手部で頑張った事が少しでも生かされるチャンスがあることを望みます。

# 平成十一年度事業報告

期日	会議の名称等	会場等
四月二七日(火)	●第一回 理事会	スポーツ会館研修室
五月 七日(金)	●会計監査	緑が丘体育館会議室
五月一六日(日)	●平成十一年度山梨県 スポーツ指導協議会総会 (研修会)	甲府市総合市民会館
六月二六日(土) ～二七日(日)	●第一回全国スポーツ指導者 連絡会議(県代表者参加)	山梨(石和)
九月 三日(金)	●第二回 理事会	スポーツ会館研修室
一二月 十日(金) ～十一日(土)	●第二回スポーツ指導者 連絡会議(県代表者参加)	東京 日体協
一二月十一日(土) ～一二日(日)	●公認スポーツ指導者全国 研修会	東京(大久保)
二月二四日(木)	●臨時支部長会議	スポーツ会館
三月十四日(火)	●第三回 理事会	スポーツ会館研修室
三月三一日(金)	●会報・名簿の発刊	

# 平成十二年度事業報告

期日	会議の名称等	会場等
四月二七日(木)	●第一回 理事会	スポーツ会館研修室
五月 九日(水)	●会計監査	緑が丘体育館会議室
五月一四日(日)	●平成十二年度山梨県スポー ツ指導協議会総会(研修会)	勤労青年センター
六月三十日(金) ～七月 一日(土)	●第二回全国スポーツ指導者 連絡会議(県代表者参加)	東京
九月 六日(金)	●第二回 理事会	スポーツ会館研修室
一二月 八日(金) ～九日(土)	●第二回スポーツ指導者 連絡会議(県代表者参加)	東京 日体協
一二月 九日(土) ～十日(日)	●公認スポーツ指導者全国 研修会	東京
三月 一日(木)	●第三回 理事会	スポーツ会館研修室
三月三十日(金)	●会報・名簿の発刊	

# 公認スポーツ指導者表彰を受賞して



「スポーツドクターとして三十五年」

(財)日本体育協会公認スポーツドクター

尾谷 良行

公認スポーツドクターとして、資格取得後十五年以上に渡りスポーツの普及振興に尽力し、顕著な功績が認められて表彰基準第一号の全国スポーツドクター十六名の内の一人として本県としては第一号の栄えある表彰を受賞し心から感謝しています。

スポーツドクターの制度は現在では、一九八二年に発足した日体協公認と一九八六年に認定制度を発足した、整形外科スポーツ医と一九九一年より発足した日本医師会健康スポーツ医がありますが、現在日本体育協会公認スポーツドクターは全国に三、七二七名で本県でも二七名が活躍しています。私も一九八三年に河野謙三会長より第三十八号の認定をされました。思えば私とスポーツ医学のかかわりは一九六四年(昭和三十九年)東京で開催された東京オリンピックの際に当時のトレーニングドクターとしてお手伝いしたのが始まりですが、その後本県のスポーツ医科学委員会の設立、かいじ国体の国体選手強化対策や国体開催時には競技役員、医務員として医学の視点から携わった想い出はつきません。長いスポーツドクターとしての生活の中で多くの良き先輩、友人そして後輩に恵まれたことを本心に心から感謝しています。今後のスポーツドクターは市民スポーツ競技、スポーツの中で益々ニーズは高まることと思います。今やスポーツ界はドーピング等の多くの課題をかかえておりますが私も若いころは競技スポーツなどに取り組む若い世代に目が向いていました。これからは自分の身の丈に合わせて「健やかに老いていく」ためのスポーツ医学に取り組んでいきたいと思っております。今後は微力ながらまだまだ本県スポーツ界のお役に立つように頑張りたいと思っております。県体協の益々の発展を祈っております。



「スポーツと私」

(財)日本体育協会

C級スポーツ指導員(バドミントン)

瀧 貢

生涯スポーツを目標にして、あらゆるスポーツに挑戦して参りました。スポーツが好きだからです。そこに指導者としての地域スポーツの発展と技術の向上に若干でも貢献できたことと思っております。このたびは恐れ多くも、日本体育協会会長からのスポーツ指導者としての表彰の栄に浴しました。見にあまる光栄であります。これは偏に同じ目標に向かって励んでいる仲間やスポーツ指導者協議会の諸先生方の御助力、御鞭撻の贈り物と深く肝に銘じて感謝申し上げます。しかし感激の輝かしき表彰式に出席することが出来ず残念でなりません。以前から患っていた椎間板ヘルニアの手術を受けたからです。腰椎、頸椎の両方を同時に受けまして病床での受賞となりました。現在は再び「グラウンド」に「コート」に立てることを期待し夢見ながら術後のリハビリ歩行訓練に励み頑張っております。今後とも旧倍の御指導、御援助をお願い申し上げます。お礼の御挨拶いたします。ありがとうございました。

